

クルマيس **ウィーリィ** 【スタンダードモデル】

取扱説明書



目 次

○注意事項・・・・・・・・・・	P 1
○各部名称および梱包内容・・・・・	P 5
○使用方法・・・・・・・・・・	P 6
○ホイールの取り付け・取り外し方法・	P 14
○アームサポートの調整・・・・・・・・	P 15
○フットサポートベルトの取り付け方法・	P 15
○運搬・保管方法・・・・・・・・・・	P 16
○お手入れ方法・・・・・・・・・・	P 16
○廃棄方法・・・・・・・・・・	P 16
○点検項目・・・・・・・・・・	P 17
○このようなときには・・・・・・・・	P 18
○仕様・・・・・・・・・・	P 19

安全にお使いいただくために

この度は当社製品をお買い求めいただき誠にありがとうございます。ご使用前に取扱説明書を確認の上、正しくお使いください。確認後は、本取扱説明書を大切に保管してください。また利用者様の身体状況や環境が変化した場合には、更生相談員や福祉用具専門相談員などの専門の人に相談し適切な処置を受けてください。

安全上の注意 必ずお守りください

①利用者様や他の人への危害・財産への損害などを未然に防止するため、必ずお守りいただくことを次のように説明しています。

取扱説明書に表示されている記号や用語は、表示内容を見逃し誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を次のような表示区分であらわしています。

⚠ 警告：死亡または重傷などを負う可能性を意味します。

⚠ 注意：障害を負うまたは物的損害を発生させる可能性を意味します。

注意：本製品の故障を防止するための注意事項や、より満足に使用していただくためのアドバイスを意味します。

②お守りいただく内容の種類を次の表示区分であらわしています。

⊘：してはいけない「禁止」を意味します。

!：必ず実行していただく「強制」を意味します。

パワードライブの使用時の注意事項については、別紙「ウィーリィ パワードライブ取扱説明書」に記載しています。本製品を使用する前に、本説明書と合わせてご確認ください。



- ①クルマイスが、身体に合わない状態で使用しないでください。
脊柱変形など健康をそこなうおそれがあります。
- ②身体状況に合ったクッションを必ず使用してください。
床ずれなどの発生のおそれがあります。
- ③タイヤの空気圧が少ない状態で使用しないでください。
タイヤのパンクや駐車ブレーキのロックができなくなり、事故の原因になります。
- ④故障または異常がある場合は、使用しないでください。
事故や転倒などによりケガをするおそれがあります。
- ⑤使用中にホイール中央のリリースピンボタンを押さないでください。
ホイールが外れ、転倒・転落などによりケガをするおそれがあります。
- ⑥使用前はホイールが確実に固定されていることを確認してください。
- ⑦本製品を改造しないでください。
改造によってクルマイスの部品の破損・脱落などで安全性が低下し、事故や転倒などによりケガをするおそれがあります。
- ⑧フットサポートの上に乗って、立ち上がりたり乗り込んだりしないでください。
クルマイスがバランスを崩し、事故や転倒などによりケガをするおそれがあります。
- ⑨クルマイスのシートの上で立ち上がらないでください。
- ⑩階段・エスカレーター・段差のある場所などの悪路では使用しないでください。
転倒や転落事故につながるおそれがあり、大変危険です。
- ⑪MRI室で使用しないでください。
非磁性ではありません。磁気に反応するため、大変危険です。
- ⑫道路の通行では、必ず右側を通行してください。(歩道がある場合は歩道を通行してください)
道路交通法規を守らない場合は、交通事故の原因になります。
※クルマイスは道交法上、歩行者と定められています。
- ⑬坂道の登り下りの場合は、介助者が支えて行ってください。(P10参照)
スピードが出たりバランスが不安定になり、事故や転倒などによりケガをするおそれがあります。
- ⑭クルマイスへの乗降時および、ベッドへの移乗時などは、必ず駐車ブレーキまたは立位駐車ブレーキを両輪側ともロックしてください。(P7、P11参照)
クルマイスが動き、事故や転倒などによりケガをするおそれがあります。
- ⑮最大利用者体重を守ってください。
最大利用者体重は100kgです。(積載物を含む)
- ⑯定期的に不具合がないか確認してください。
各部のガタつきやネジのゆるみ、タイヤのすりへり、その他の不具合により、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ⑰利用者様の体調が著しく低下しているときは、十分注意して使用してください。
- ⑱クルマイスはバランスをくずして転倒する場合があります。利用者様・介助者とも、クルマイスが転倒しないように十分注意して使用してください。
- ⑲転倒しないよう、あらかじめ転倒防止バーの長さを調整してください。(P12参照)
- ⑳主輪をつけず、転倒防止バーのみで使用しないでください。
- ㉑クルマイスを持ち上げる場合は、駐車ブレーキまたは立位駐車ブレーキをかけ、黄色のサポートカラー部分4ヵ所ですっかり支えてください。(P10参照)
アームサポート・フットサポート・バックサポートを持たないでください。
これらの箇所を持ち上げると、アームサポートやフットサポートなどがクルマイスから外れるなど、大変危険です。
3人以上で持ち上げる場合は、黄色のサポートカラー部分を持ってしっかりと支えてください。
また、利用者様の身体の一部を持たないでください。
- ㉒本説明書に記載以外の使用はしないでください。
- ㉓踏台・脚立・手すり・歩行器のかわりに使用しないでください。
- ㉔子供に操作をさせないでください。
- ㉕二人乗りなど多人数での使用はしないでください。

注意事項

- ②⑥利用者様・介助者とも、クルマイス使用時には履物をはいてください。素足でクルマイスを使用しないでください。
思わぬケガのおそれがあります。
- ②⑦本製品の改良・改善により、詳細において本書の内容と異なる場合があります。
不明な事柄につきましては、お問い合わせください。
- ②⑧シート以外の部分に腰掛けしないでください。
- ②⑨介助者は、絶対にクルマイスに乗って介助しないでください。
- ③⑩グリップに寄りかかったり、歩行補助として使用しないでください。
- ③⑪本説明書に記載されている調整箇所以外の調整を行わないでください。
事故や転倒などによりケガをするおそれがあります。
- ③⑫大きな段差を無理に乗り越えないでください。
転倒によりケガをするおそれがあります。
- ③⑬発進するときや段差を乗り越えるときには、キャストのタイヤが真っ直ぐになっていることを確認してから走行してください。
斜めに進入したり、キャストのタイヤが斜めになった状態で発進すると段差を乗り越えられなくなったり、キャストが破損して事故につながるおそれがあり大変危険です。
- ③⑭クルマイスに座ったまま強い前傾姿勢をとらないでください。
クルマイスに座ったまま前方の地面に置いてあるものを拾うなどの動作は、クルマイスごと転倒し大変危険です。
- ③⑮傾斜地・坂道での走行は特に注意してください。
傾斜地や坂道ではクルマイスが予想外の方向に進んだり、スピードが出やすいなど大変危険です。また、クルマイスからずり落ちる、前へ倒れるなど、非常に不安定になり危険です。
- ③⑯介助が必要な場合は、クルマイスの機能と操作をよく理解し、介助を行ってください。
- ③⑰乗り降りする場合は、駐車ブレーキおよび立位駐車ブレーキのレバーに体重をかけないでください。
レバーが破損・変形し、転倒するおそれがあります。
- ③⑱各部を調整する場合は、必ず駐車ブレーキまたは立位駐車ブレーキをかけ、平坦な場所で行ってください。
クルマイスが動きだし、事故やケガにつながるおそれがあります。
- ③⑲タイヤの摩耗に注意してください。
タイヤが摩耗すると、ブレーキが効かなくなる場合があります。ブレーキの効き具合が悪いときは、(株)モルテン健康用品事業部お客様窓口までご相談ください。
- ④⑩走行中に駐車ブレーキおよび立位駐車ブレーキを使用しないでください。
転倒などの事故につながるおそれがあります。
- ④⑪ブレーキ延長棒など、専用オプション品以外の部品は取り付けしないでください。
- ④⑫安全のため、ホイール・タイヤは弊社指定の製品を使用してください。

パワードライブの使用時の注意事項については、別紙「ウィーリィ パワードライブ取扱説明書」に記載しています。
本製品を使用する前に、本説明書と合わせてご確認ください。



- ①バックサポート・バックサポートパイプ・グリップなどに重いものを引っ掛けないでください。
クルマイスが不安定になり、事故や転倒などによりケガをするおそれがあります。
- ②クルマイスを広げたり折りたたんだりする場合は、座パイプの横や下に、手や指を入れないでください。
パイプに手や指をはさんでケガをするおそれがあります。
- ③クルマイスを折りたたむ、持ち運ぶ場合は、座パイプおよびリジッドバーを握らないでください。
手をはさみ危険です。また、破損するおそれがあります。
- ④タイヤを持ってクルマイスを操作しないでください。
ブレーキに手が当たり、ケガをする原因になります。
- ⑤スピードが出ている状態で、素手でハンドリムを持って減速しないでください。
摩擦で、手にケガをするおそれがあります。そのような場合は、滑り止めのある手袋などを使用してください。
- ⑥走行中、身体を乗り出さないでください。
バランスが不安定になり、事故や転倒などによりケガをするおそれがあります。
- ⑦主輪に、体の一部や物を差し込まないでください。
手や指をはさんで、ケガをする原因になります。
- ⑧スピードをつけて、段差を乗り越えようとししないでください。
利用者がクルマイスから転落し、事故や転倒などによりケガをするおそれがあります。
- ⑨凸凹のある路面では、前かがみ姿勢で使用しないでください。
バランスを崩し、前に転倒して事故の原因になります。
- ⑩火気の近くに置かないでください。
シートが燃え火災の原因になります。
- ⑪利用者様の移動目的以外では、使用しないでください。(台車の代わりに使用しないでください)
- ⑫クルマイスを広げた場合は、座パイプが受けに収まっているか、確認して座ってください。
パイプが曲がったりしていると、事故や転倒および故障などによりケガをするおそれがあります。
- ⑬フットサポートが固定されているか、確認して使用してください。
フットサポートが脱落し事故の原因になります。
- ⑭フットサポートの高さは地面より5cm以上で使用してください。
路面の凹凸や障害物にフットサポートが引っ掛かり、急にクルマイスが止まり、事故や転倒などによりケガをするおそれがあります。
- ⑮アームサポートが固定されているか確認して使用してください。
- ⑯乗り降りや駐車は平坦な場所で行ってください。
クルマイスが動いたりしてバランスを崩し、事故や転倒などによりケガをするおそれがあります。
- ⑰急な坂道を前向きで下らないでください。
利用者が前方へズレたり転倒するなど、大変危険です。
- ⑱坂道を下るとき介助者は、クルマイスを後ろ向きでゆっくり確認しながら走行してください。
前向きで下ると、乗っている人がずり落ちたり、前のめりとなり、事故や転倒などによりケガをするおそれがあります。
- ⑲側溝の格子蓋にキャストが落ち込まないように注意してください。
クルマイスが急に止まり、利用者様の体が前方に傾き、転落事故や転倒などによりケガをするおそれがあります。
- ⑳介助者は、移動中に利用者様のつま先が障害物に当たらないように、確認して走行してください。
- ㉑介助者は、フットサポートに利用者様の足が乗っているか確認して走行してください。
- ㉒面ファスナーに付いた糸くずや汚れを取り除いてください。
接着力が弱くなり製品機能を損なうおそれがあります。
- ㉓周辺に小さなお子様がいるときは、指や手足をはさむなどして、ケガをするおそれがありますので十分注意してください。
- ㉔本製品をゆすったり、踏んだりなどの乱暴な取り扱いをしたり、落としたり、たたいたりなどの強い力や衝撃を与えないでください。
本製品が破損するおそれがあります。
- ㉕水にぬれたままにしておくと、本製品に錆びやカビが出るおそれがあります。
ぬれた場合は乾いた布ですみやかに拭きとってください。

注意事項

- ②⑥ 気温の差の激しい場所や異常に高温な場所(車中など)に本製品を放置しないでください。
フレームが傷むばかりでなく、熱くなったフレームで火傷をしたり、高温になったシートに座ることで体調に悪影響を与えるおそれがあります。
- ②⑦ クルマイスを投げたり落したり、衝撃を加えないでください。
フレームが歪んだり、破損の原因になります。
- ②⑧ 急発進・急停車・急な方向転換をしないでください。
- ②⑨ 荷物などを持って、片手で走行しないでください。
片手に荷物を持ちながらの片手操作ではバランスを崩す原因にもなります。両手で操作し、バランスを保ちながらゆっくりと走行してください。
- ③⑩ 駐車ブレーキおよび立位駐車ブレーキのレバーは作動方向以外に力を加えないでください。また、必要以上に力を加えないでください。
ブレーキが変形・破損するおそれがあります。
- ③⑪ 下記のような場所にクルマイスや部品を放置しないでください。
・車道に近い場所 ・路面に段差や凹凸のある場所 ・海沿いの屋外(潮風の当たる場所) ・ほこりの多い場所
・非常口、消火器、消火栓の前 ・直射日光の当たる場所(車内も含む) ・ストーブなど火気を使用し高温になる場所
・子供がいたずらをするおそれのある場所 ・人通りのある場所 ・湿気の多い場所 ・雨、風のあたる場所
・坂道 ・暑い日や寒い日の戸外
- ③⑫ 使用前には各部を点検してください。
クルマイスは“動くもの”ですので、長時間の使用などにより劣化が生じます。使用前の点検を励行し、異常が見つかった場合は、ただちに使用を中止してください。
- ③⑬ 安定した姿勢で座ってください。
座面深く左右にかたよらずに座ってください。また、介助が必要な場合は、利用者様が安定した姿勢で座っていることを確認してください。
- ③⑭ 姿勢保持クッションを使用する場合は、主輪などにはさみ込まれないよう注意してください。
- ③⑮ 認知症の人が使用する場合は、必ず介助者が付き添ってください。
クルマイスのシート、部品などを飲み込むことや一度かけた駐車ブレーキを不意に解除される場合がありますので、十分注意してください。
- ③⑯ 駐車ブレーキおよび立位駐車ブレーキは必ず手で操作してください。
足などで操作するとブレーキが破損するおそれがあります。
- ③⑰ 介助者は、利用者様がクルマイスに安全に座っていることを確認してから操作してください。
利用者様の身体の一部または衣服がタイヤ・スポーク・キャストおよび地面・建物・通行者に触れたりはさまったりしないよう注意してください。
- ③⑱ 靴を履かずにフットサポートに乗せて使用する場合は、十分注意してください。
壁や柱で足をケガしたり、足がフットサポートから落ちて骨折するなど、大変危険です。
- ③⑲ クルマイスの乗り降りや移乗などクルマイスが不安定になりやすい場合は、必ず介助者が付き添ってください。
- ④⑩ 利用者様の心身の状況、症状を充分考慮し、適切な介助を行ってください。
- ④⑪ 次のような場合は走行に十分注意してください。
・夜間 ・雨天 ・濃霧 ・強風 ・積雪 ・凍結 ・その他危険が予想される場合
夜間は側溝や障害物などが発見しにくくなり危険です。雨天は路面が滑りやすくなり危険です。
- ④⑫ 次のような場所では厳重な注意が必要です。
・エレベーター ・クルマイス対応の福祉車両 ・その他危険が予想される場所
介助者が付き添い、利用者様の身体を支えるなど注意しながら使用してください。
- ④⑬ スピードを出し過ぎないようにしてください。走行スピードは利用者様および介助者がコントロールできる速度で走行してください。
スピードが出ているときに急カーブを走行したり、急ブレーキをかけたりすると、転倒して事故やケガにつながるおそれがあります。
- ④⑭ 操作中に異常な音や振動が発生した場合は、即時に使用を中止してください。
事故やケガにつながるおそれがあります。
- ④⑮ 使用する前に駐車ブレーキおよび立位駐車ブレーキなどのネジを点検し、ゆるんでいる場合は、増しじめをしてください。
- ④⑯ フットサポートを足で上げる場合は、素足で行わないでください。
ケガをするおそれがあります。
- ④⑰ フットサポートの下には足を入れないでください。
足を地面でこすったり、フットサポートやキャストなどに足をぶつけてケガをするおそれがあります。
- ④⑱ フットサポートのすき間に手や足を入れないでください。
ケガをするおそれがあります。
- ④⑲ シンナーやベンジンなどの溶剤は、使用しないでください。
本製品を傷めるおそれがあります。

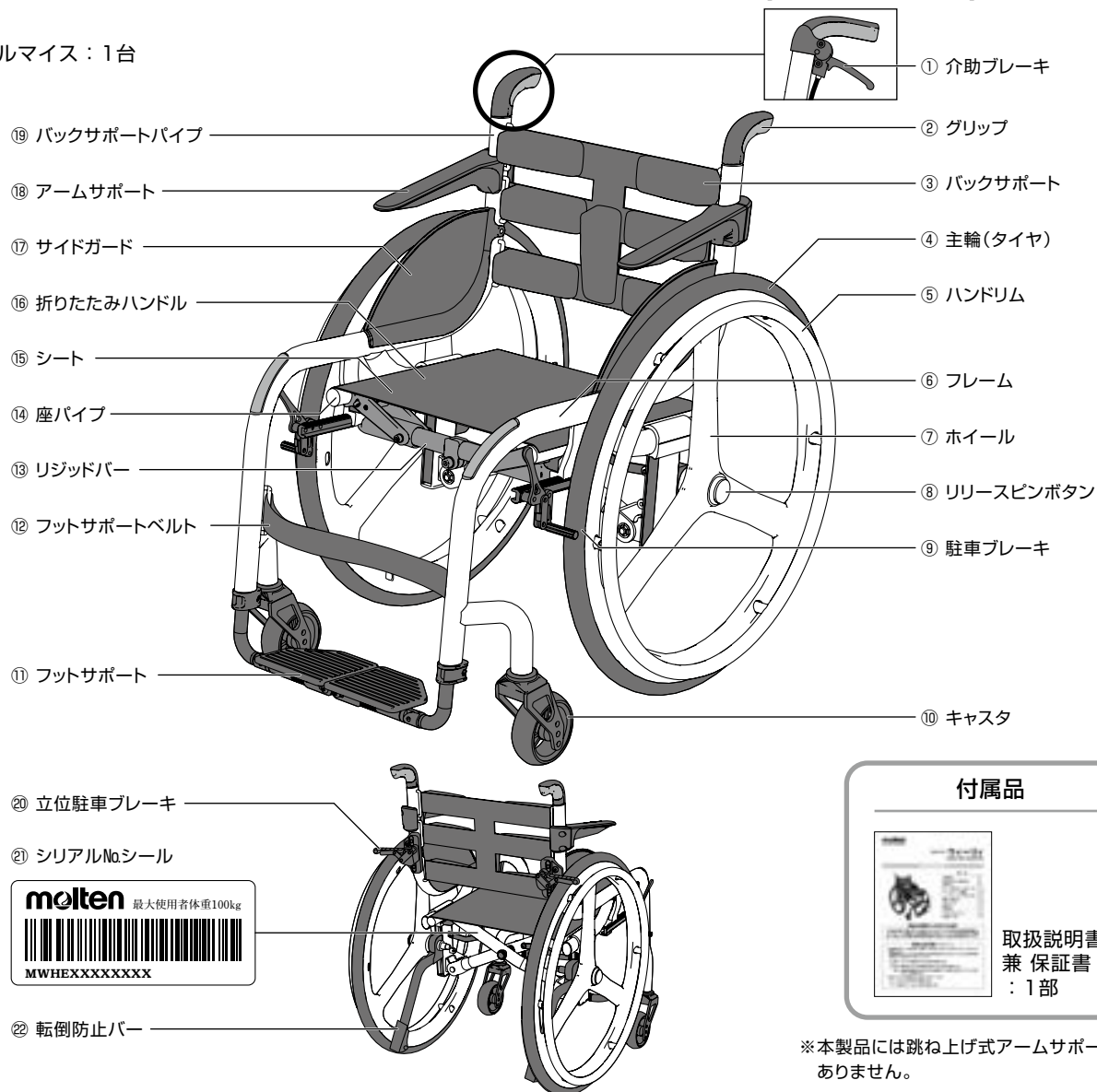
各部名称および梱包内容

以下の部品が全てそろっているか、破損・変形などしていないかを確認してください。

万が一、部品の不足・破損があった場合は、(株)モルテン健康用品事業本部お客様窓口にご連絡ください。

クルマイス：1台

【介助ブレーキ付きの場合】



警告

- ①クルマイス利用時は身体状況に合ったクッションを必ず使用してください。
転倒のおそれがある場合は、転倒防止バーを取り付けてください。
- ②安全のため、ホイール・タイヤは弊社指定の製品を使用してください。

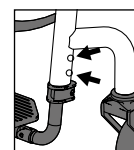
安全に使用していただくため、使用前に以下の確認をしてください。

- タイヤの摩耗・亀裂はないか
- ブレーキに異常はないか
- ブレーキをロックしたとき、駆動輪・主輪が回転しないか
- 点検表を参照してください



注意

右図のフットサポート部にある矢印のボルトは調整しないでください。



ウィーリーの持ち手は黄色のサポートカラー部分です。

絵表示について

※工具・潤滑油・グリスは付属していません。



(スパナ)

：この絵表示は増し締め箇所を示します。定期的なゆるみがないか点検してください。

※数字は工具の呼び(サイズ)を表しています。



(六角レンチ)



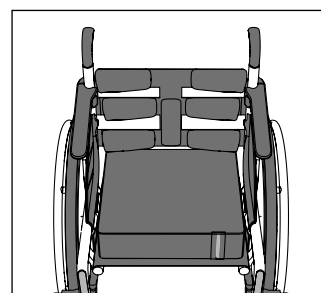
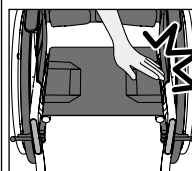
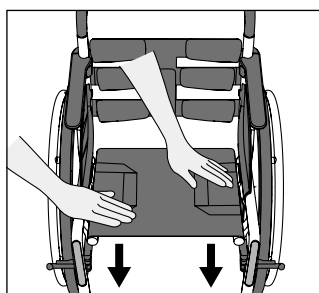
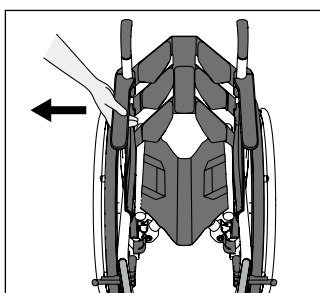
：この絵表示は潤滑油注油箇所を示しています。定期的(1ヶ月に1度が目安)に注油ください。



：この絵表示はグリス注油箇所を示しています。定期的(1ヶ月に1度が目安)に注油ください。

※潤滑油とグリス両方表示してある場合は、どちらも使用可能です。

1 クルマイスの広げ方



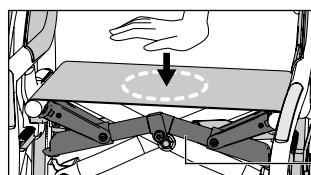
①アームサポートを持って広げます。

②シートの両脇を上からしっかりと押し下げます。

※シートとサイドガードの間に手をはさまないよう、気をつけてください。

③クッションを使用する場合は、シートに取り付けます。

クッションには向きがあります。確認して使用してください。



リジッドバーが広がらなかった場合は、シートの上から手の平で押し下げます。

リジッドバー



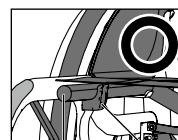
注意

①クルマイスを広げるときに、座パイプの横や下に、手や指を入れないでください。

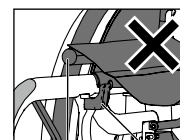
パイプに手や指をはさんでケガをするおそれがあります。

②クルマイスを広げた場合は、座パイプが受けに収まっているか、確認して座ってください。

パイプが曲がったりしていると、転落事故および故障の原因になります。



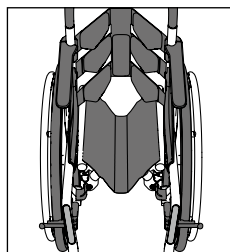
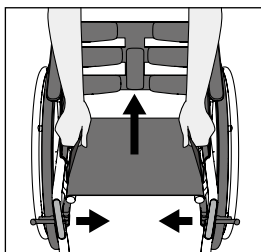
座パイプ



座パイプ

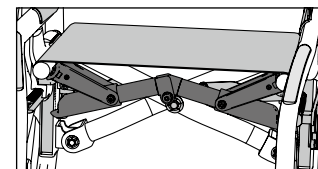
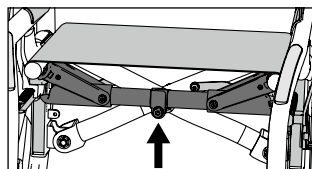
受け

2 クルマイスの折りたたみ方



①クッションを使用している場合は、取り外します。

②折りたたみハンドルをつかんで引き上げると、折りたためます。



リジッドバーの戻りが悪い場合は、中心部分を下から押し上げてください。

※指のはさまれに注意してください。



注意

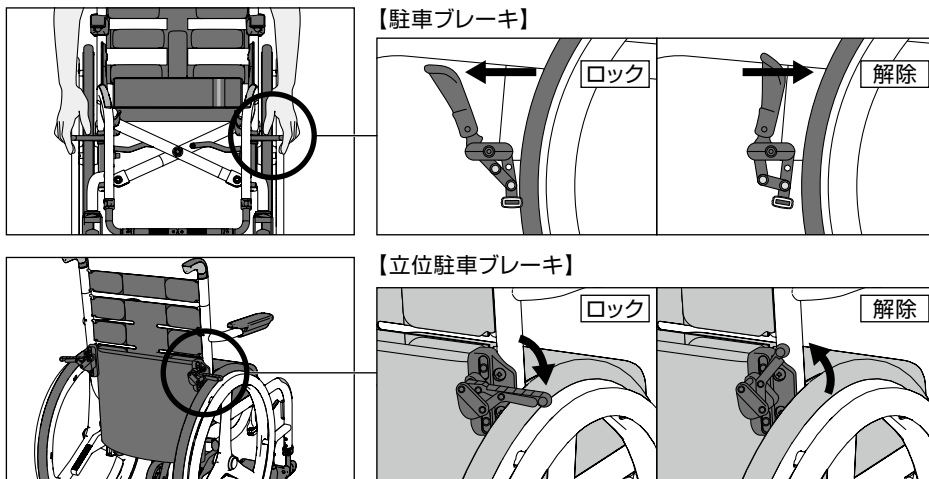
クルマイスを折りたたむ、持ち運ぶ場合は、座パイプおよびリジッドバーを握らないでください。手をはさみ危険です。また、破損するおそれがあります。

3 乗る・降りる

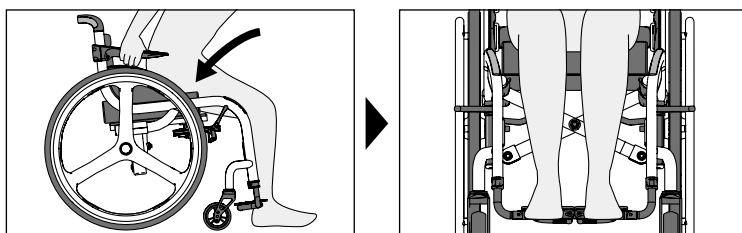
※下記は一例です。

クルマイスに乗る場合

- ① 駐車ブレーキまたは立位駐車ブレーキを両輪側ともロックします。



※立位駐車ブレーキの操作は、ブレーキ先端部分(丸部)で操作してください。挟み込みに注意してください。

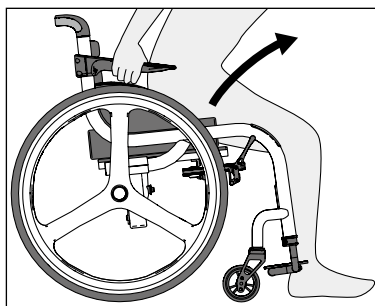
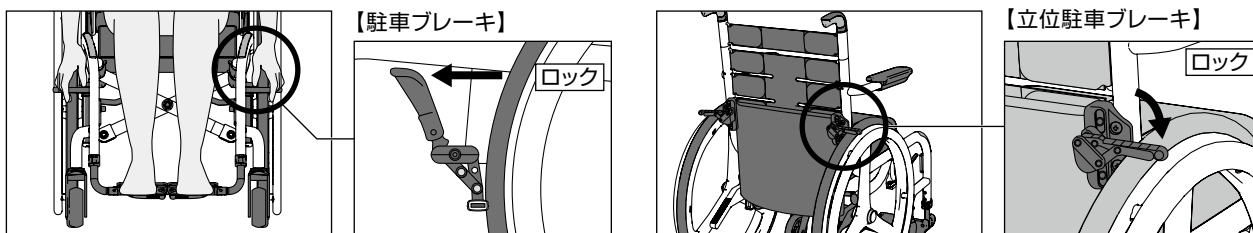


- ② 両手でアームサポートやフレームを持ち、ゆっくり座り込みます。

- ③ フットサポートに足を乗せてください。

クルマイスから降りる場合

- ① 駐車ブレーキまたは立位駐車ブレーキを両輪側ともロックします。



- ② 両手でアームサポートやフレームを持ち、ゆっくり移乗してください。



警告

- ① フットサポートの上に乗って、立ち上ったり乗り込んだりしないでください。
クルマイスがバランスを崩し、転倒事故の原因になります。
- ② 乗り降りする場合は、ゆっくり行ってください。
急に乗り降りすると、ケガをするおそれがあります。
- ③ 乗り降りする場合は、駐車ブレーキおよび立位駐車ブレーキのレバーに体重をかけないでください。
レバーが破損・変形し、転倒するおそれがあります。
- ④ 乗り降りする場合は、上げたフットサポートに足が当たらないよう注意してください。
ケガをするおそれがあります。
- ⑤ クルマイスへの乗降時および、ベッドへの移乗時などは、駐車ブレーキまたは立位駐車ブレーキを両輪側ともロックしてください。
クルマイスが動き、転倒事故の原因になります。

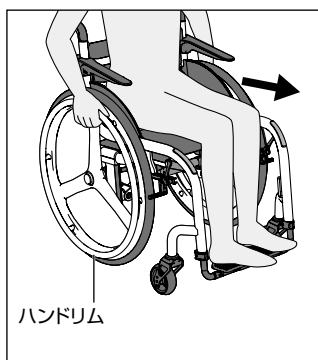
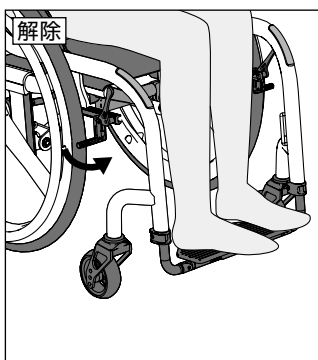


注意

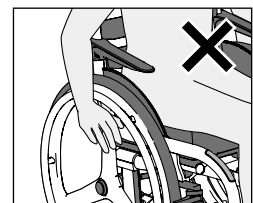
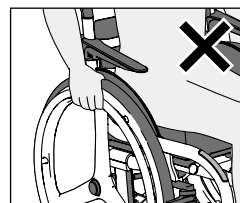
- 乗り降りや駐車は平坦な場所で行ってください。
クルマイスが動いたりしてバランスを崩し、転倒・転落事故の原因になります。

4 動かし方

自走用として使用する場合の一般的な動かし方



- ① 駐車ブレーキおよび立位駐車ブレーキを両輪側とも解除します。
- ② ハンドリムを握り、主輪を回転させて移動します。
※タイヤおよびホイールを握らないでください。



警告

- ① 走行スピードは利用者様および介助者がコントロールできる速度で走行してください。
- ② 駐車ブレーキおよび立位駐車ブレーキで減速しないでください。
減速はハンドリムで行ってください。ただし、スピードが出すぎている場合は、摩擦でケガをするおそれがあります。
- ③ 走行中、体を乗り出さないでください。
バランスが不安定になり、転倒・転落事故の原因になります。



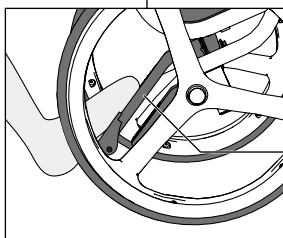
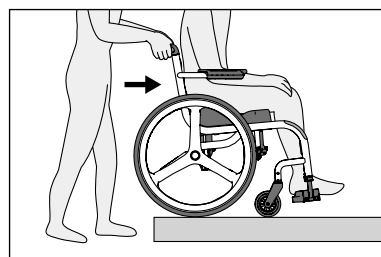
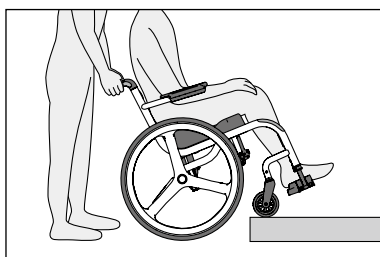
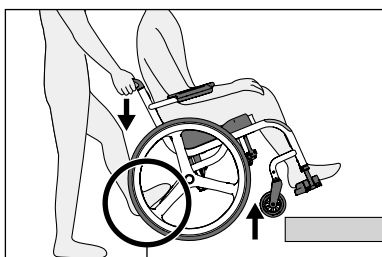
注意

- ① タイヤを持ってクルマイスを操作しないでください。
ブレーキに手が当たったり、摩擦でケガをするおそれがあります。
- ② 主輪に、体の一部や物を差し込まないでください。
手や指をはさんで、ケガをするおそれがあります。
- ③ バックしながら急停止しないでください。
転落事故の原因になります。
- ④ フットサポートの下には足を入れないでください。
足を地面でこすったり、フットサポートやキャストなどに足をぶつけてケガをするおそれがあります。
- ⑤ 足こぎで操作する場合は、フットサポートに足をぶつけたり、床などに足を取られないよう注意してください。

5 介助が必要な場合

次のような使用場所や環境では、危険が伴う場合がありますので、必ず介助者が付き添ってください。
介助者が付き添っていない場合は、周りの人に介助をお願いしてください。

●傾斜している路面 ●段差乗り越え ●乗り物への乗車・下車 ●エレベーターの乗り降り



介助者は、段差を乗り越える場合は、転倒防止バーを踏みながらグリップを手前に引いてキャストを上げ、前輪を段差に乗せてから、乗り越えてください。

転倒防止バー



警告

スピードをつけて、段差を乗り越えようとししないでください。
利用者がクルマイスから転落し、事故の原因になります。



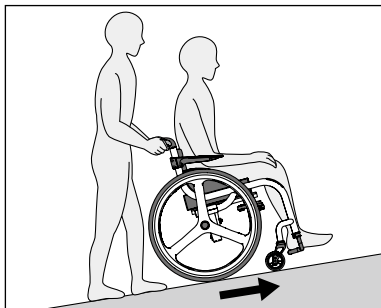
注意

グリップのみで、キャストを上げないでください。
バックサポートパイプが曲がったり折れたりして転倒、事故の原因になります。

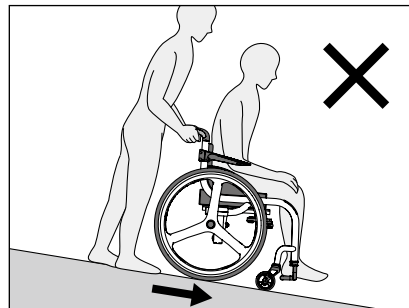
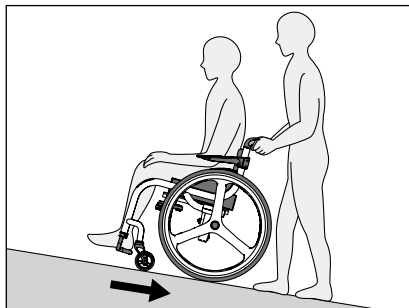
6 坂道で介助が必要な場合

坂道の登り下りで介助を行う場合は、下記のように行ってください。

【登り坂】

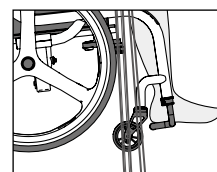
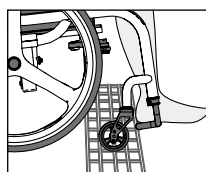


【下り坂】



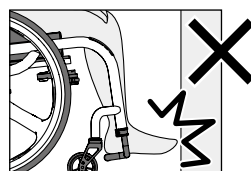
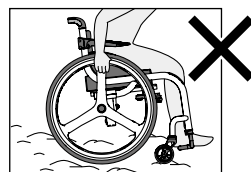
警告

- ①側溝の格子蓋などで使用の場合は、必ず介助者が支えて行ってください。
クルマイスが急に止まり、転倒事故の原因になります。
- ②急な坂道(勾配4度以上)では使用しないでください。



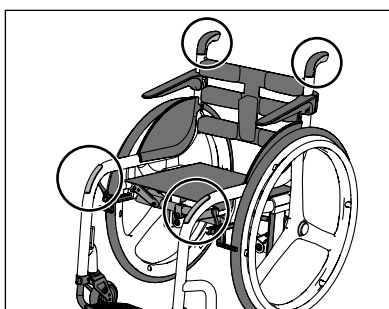
注意

- ①坂道を下るとき介助者は、クルマイスを後ろ向きでゆっくり確認しながら走行してください。
前向きで下ると、乗っている人がすり落ちたり、前のめりとなり、転倒事故の原因になります。
- ②凸凹のある路面では、前かがみ姿勢で使用しないでください。
バランスを崩し、前に転倒して事故の原因になります。
- ③側溝の格子蓋にキャストが落ち込まないように注意してください。
クルマイスが急に止まり、利用者様の体が前方に傾き、転落・転倒事故の原因になります。



【介助者の方へ】

- ①移動中に利用者様のつま先が障害物に当たらないように、確認して走行してください。
- ②フットサポートに利用者様の足が乗っているか確認して走行してください。



クルマイスを持ち上げる場合は、駐車ブレーキまたは立位駐車ブレーキをかけ、黄色のサポートカラー部分4ヵ所でしっかり支えてください。



警告

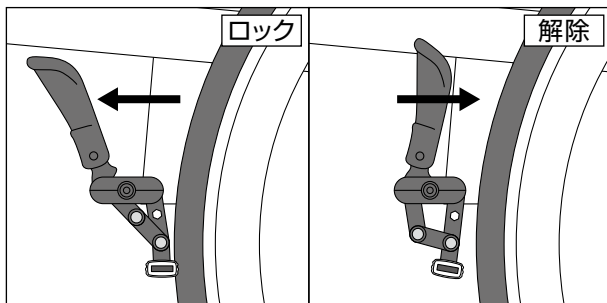
アームサポート・フットサポート・バックサポートを持たないでください。これらの箇所を持ち上げると、アームサポートやフットサポートなどがクルマイスから外れるなど、大変危険です。3人以上で持ち上げる場合は、黄色のサポートカラー部分を持ってしっかりと支えてください。また、利用者様の身体の一部を持たないでください。

7 ブレーキの使用方法

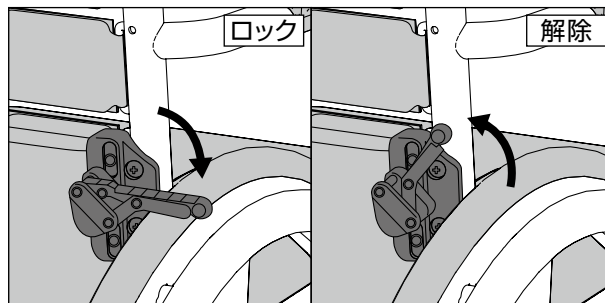
駐車ブレーキの場合は、レバーを前方へ押すとロック、後方へ引くと解除します。

介助用駐車ブレーキの場合は、レバーを外側へ倒すとロック、内側へ起こすと解除します。

【駐車ブレーキ】



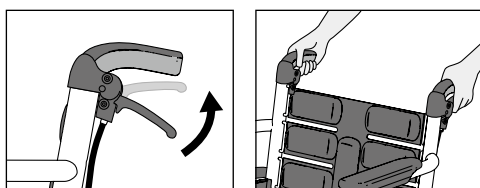
【介助用駐車ブレーキ】



警告

クルミスへの乗降時および、ベッドへの移乗時などは、必ず駐車ブレーキまたは介助用駐車ブレーキを両輪側ともロックしてください。
クルミスが動き、転倒事故の原因になります。

介助ブレーキ付きを使用する場合



介助者が走行中に下り坂で使用することで、安全に速度減速および停止できます。

- ①レバーを握るとブレーキがかかります。
- ②レバーを離すと解除します。

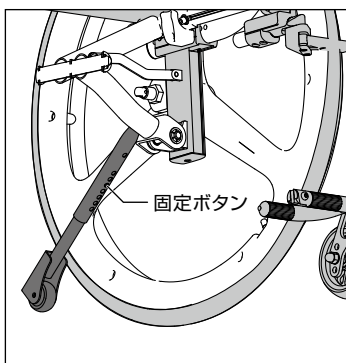


注意

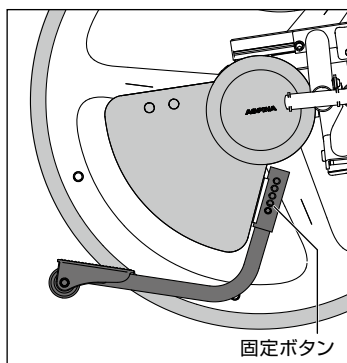
- ①急ブレーキをかけないでください。
クルミスに乗っている利用者が前方へ転倒し、ケガをするおそれがあります。
- ②介助者は、介助ブレーキレバーを両輪側同時にかけてください。
片側だけでブレーキをかけると、バランスを崩して転倒し、ケガをするおそれがあります。

8 転倒防止バーの調整方法

【スタンダードモデル】



【パワードライブ】



納品初期状態の転倒防止バーは、あらかじめ転倒しにくい位置で調整しています。

調整する場合は、固定ボタンを押して転倒防止バーを伸縮させてキャストアップの調整をし、転倒しにくくなっていることを確認してください。

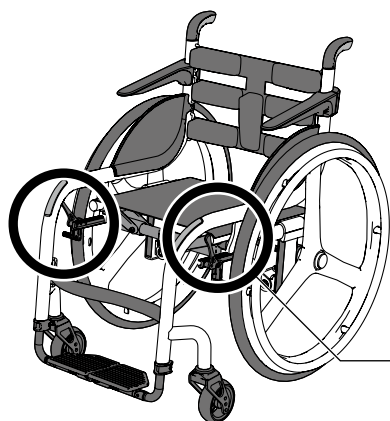


警告

転倒しないよう、転倒防止バーの長さを調整し確認してください。

9 ブレーキの調整方法

駐車ブレーキの場合

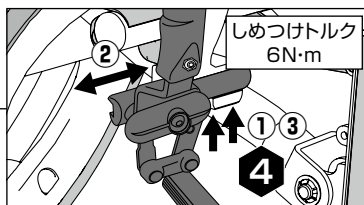


- ①ブレーキの矢印の位置のボルト(2ヶ所)を六角レンチ(4mm)でゆるめます。
- ②ブレーキの前後位置を調整します。
- ③適正な位置に調整後、ボルト(2ヶ所)を6N・mのトルクで確実にしめてください。

※ボルトをしめすぎると破損するおそれがあります。

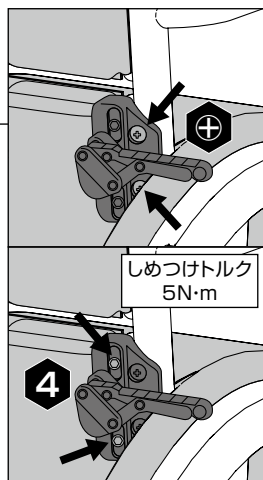
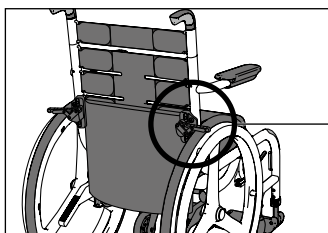
※ボルトがゆるんでいないか、定期的に確認し、ゆるんでいればしめ直してください。

【ブレーキ(2本×2ヶ所)】



※ブレーキはボルトをゆるめると前後にスライドし、調整できます。

立位駐車ブレーキの場合



ブレーキ本体を取り替える場合

- ①ブレーキの矢印の位置のボルト(2ヶ所)を⊕ドライバーでゆるめます。
- ②パーツを取り外して新しいパーツを取り付け、ボルト(2ヶ所)を⊕ドライバーでしっかりしめてください。

ブレーキの制動力を調整する場合

ブレーキの固定・解除を繰り返してタイヤへの押し当て量を調整し、六角穴付ボルト(4mm、2ヶ所)を5N・mのトルクで確実にしめてください。

※ボルトをしめすぎると破損するおそれがあります。

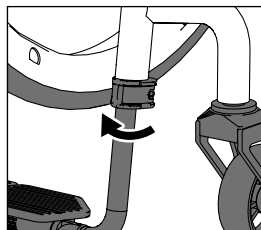
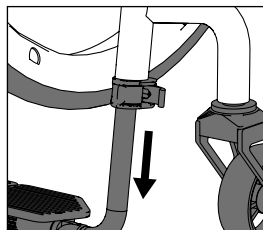
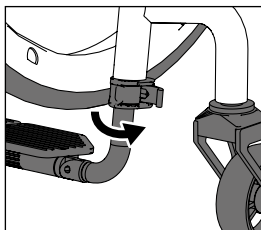
※ボルトがゆるんでいないか、定期的に確認し、ゆるんでいればしめ直してください。



警告

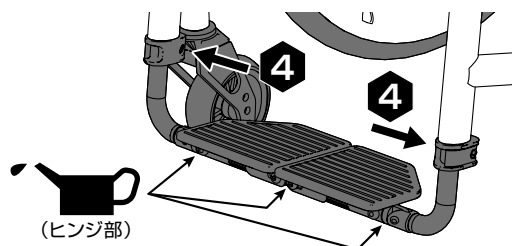
ブレーキ調整前にタイヤの空気圧が適正かご確認ください。(P14参照)

10 フットサポートの調整方法



- ①レバーを回転させ、ロックを解除します。
- ②高さを上下に調整します。
- ③高さを決め、レバーを元の位置に戻します。

フットサポートが下がりやすい場合は矢印のネジ(2ヶ所)をしめて調整してください。

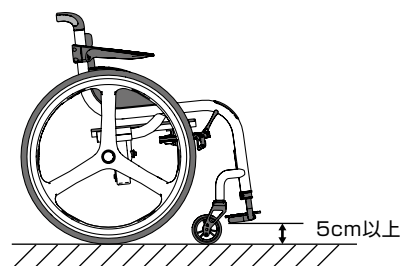


注意 取り付け時は前後を確認して取り付けてください。

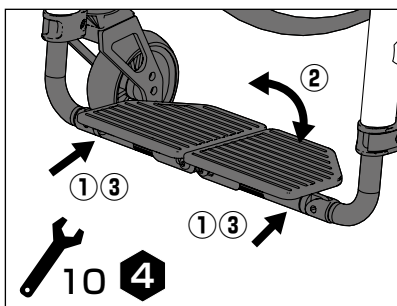


警告

フットサポートの高さは地面より5cm以上で使用してください。
路面の凹凸や障害物にフットサポートが引っ掛かり、急にクルマイスが止まり、転倒事故の原因になります。

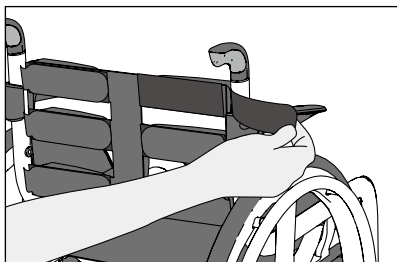


11 フットサポートの角度調整方法



- ①フットサポートの矢印位置のボルト・ナット(2ヶ所)をゆるめます。
- ②フットサポートを持ち、角度を調整します。
- ③適正な位置に調整後、2ヶ所のボルト・ナットをしめてください。

12 バックサポートの調整方法



バックサポートの張りを随時チェックしてください。必要に応じて調整できます。

①駐車ブレーキのレバーを引いて、両輪のブレーキをかけます。

②面ファスナーをはがし、バックサポートの張りを調節した後、もう一度面ファスナーをしっかりと貼り合わせます。

※手でバックサポートを押し、確実に固定されていて、張りが適切であることを確認してください。

前側のクッション部は面ファスナーで接着していますので、取り外して調整できます。



注意 面ファスナーに糸くずや汚れなどがついた場合は、接着が弱くなりますので、取り除いてください。

13 適正なタイヤ空気圧の確認

バルブから空気を注入し、適正圧に調整してください。

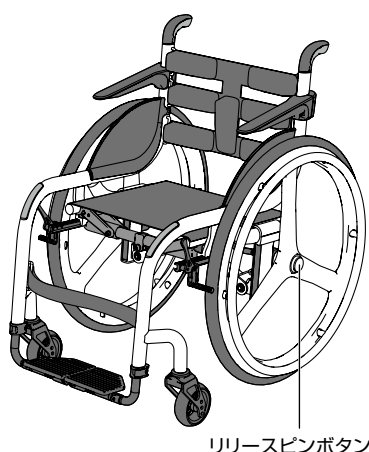
適正タイヤ空気圧：650kPa(6.5kg/cm²)

バルブ：米式



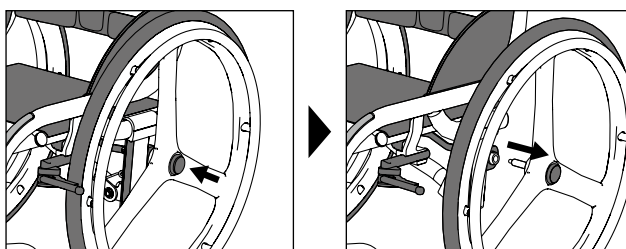
注意 空気圧が減るとブレーキが掛かりにくくなります。事故などの原因になりますので、適正空気圧を定期的に確認してください。

ホイールの取り付け・取り外し方法

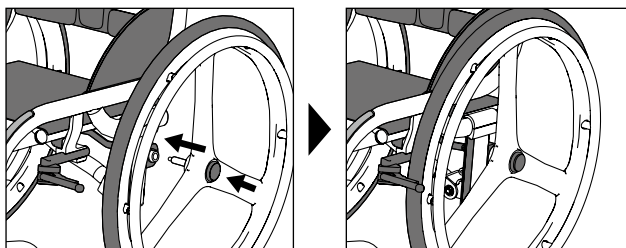


リリースピンボタン

ホイールの真ん中にあるリリースピンボタンを押したまま引くと取り外せます。

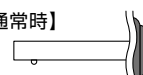


取り付ける場合は、リリースピンボタンを押したまま差し込んでください。

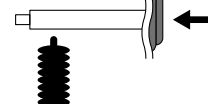


※ホイール接続部の先端はボタンを押した状態にしないと差し込むことができません。

【通常時】

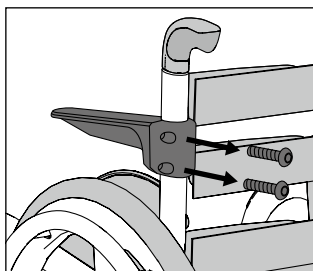
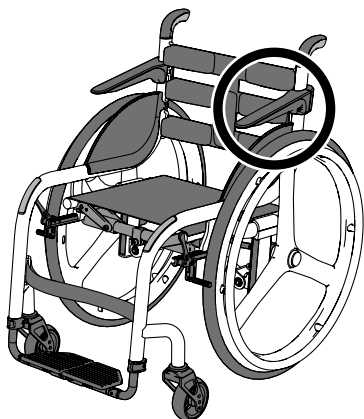


【押した状態】

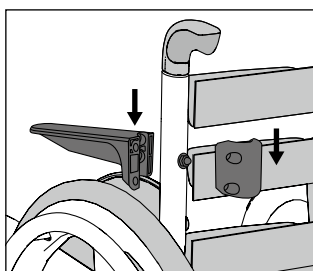


※異音などが発生した場合は、リリースピンにグリスを塗布してください。

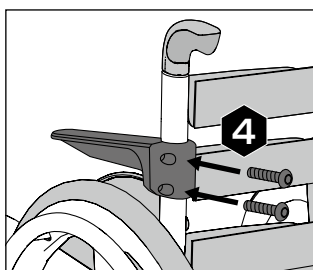
アームサポートの調整



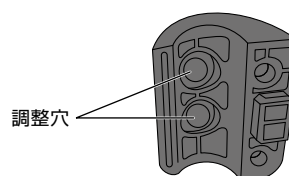
①アームサポートの固定ボルト(2ヶ所)を外します。



②フレームのビスとアームサポートの調整穴の位置をずらすことで、2段階の調整ができます。

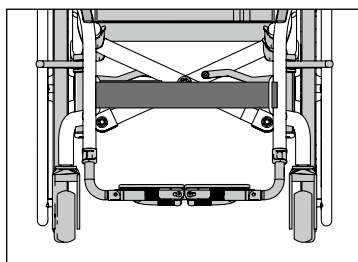
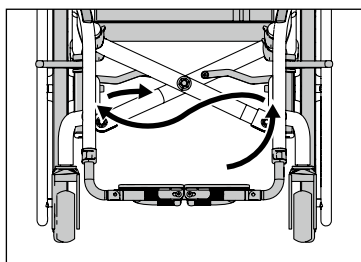


③固定ボルト(2ヶ所)を取り付けます。



調整穴

フットサポートベルトの取り付け方法



フットサポートベルトを面ファスナーのある端部からフレームのフックに通し、面ファスナーでしっかり固定してください。

運搬・保管方法

運搬方法

運搬する場合は、折りたたんで手前側のフレームと奥側のフレームを持って運んでください。ホイールを外して別個に運搬することもできます。
(P14「ホイールの取り付け・取り外し方法」参照)

保管方法

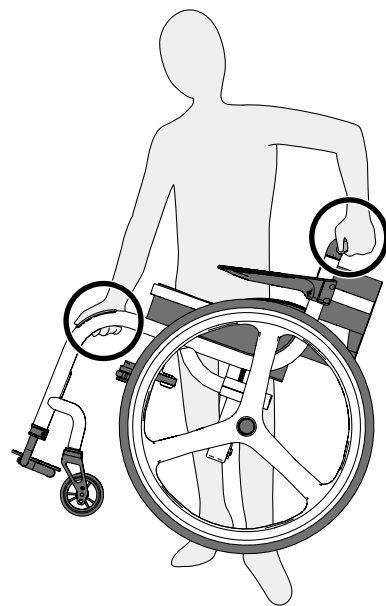
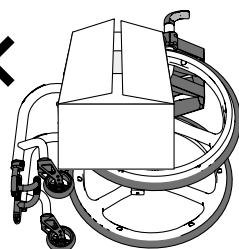
次のような場所では保管しないでください。故障の原因になります。

- ・ 雨に濡れる場所
- ・ 直射日光が当たる場所
- ・ 炎天下
- ・ 湿気の多い場所
- ・ 高温になる場所(45℃以上)



注意

クルマيسを横向きに倒して、上に物を置かないでください。重みで主輪フレームが曲がり、故障の原因になります。



お手入れ方法

消毒する場合は、アルコール消毒剤などを柔らかい布に吹き付けてから清拭してください。

清拭する場合は、中性洗剤を水で薄め柔らかい布に浸し、よく絞ってから清拭してください。仕上げに乾いた布で拭き取ってください。



- ⓪ 次亜塩素酸を使用する場合は、6%水溶液を100～200倍に希釈して清拭し、仕上げに水拭きしてください。
- ⓪ 有機溶剤(シンナーやベンジンなど)、強酸性洗剤は使用しないでください。
- ⓪ オゾン消毒は金属部分に影響を与えるため、使用しないでください。
- ⓪ 60℃以上の温度を加えないでください。
- ⓪ 金属ブラシ、ナイロンたわしなどはキズをつけるため、使用しないでください。

廃棄方法

お住まいの各自治体の指示にしたがい、処分・廃棄してください。
地球環境のため、放置はしないでください。

点検項目

下記の点検項目を確認してください。

異常があった場合は、(株)モルテン健康用品事業本部お客様窓口までご相談ください。

点 検 項 目		確 認	
1	キャスト(前輪)の確認 ・亀裂やキズはありませんか？ ・摩耗していませんか？ ・スムーズに回転しますか？ ・スムーズに旋回しますか？	YES ☐	NO
2	主輪(後輪)の確認 ・亀裂やキズはありませんか？ ・摩耗していませんか？ ・スムーズに回転しますか？ ・ホイールが外れていませんか？	YES ☐	NO
3	ハンドリムの確認 ・亀裂やキズはありませんか？	YES ☐	NO
4	本体の確認 ・ゆがみなどありませんか？ ・ボルト・ナットの緩みはありませんか？ ・スムーズに広げることができますか？ ・座パイプが受けに収まっていますか？ ・スムーズにたためますか？	YES ☐	NO
5	駐車ブレーキまたは立位駐車ブレーキの確認 ・ブレーキは効きますか？ ・レバー操作はスムーズに行えますか？ ・ブレーキにガタつきはありませんか？	YES ☐	NO
6	バックサポートの確認 ・破れや破損はありませんか？ ・面ファスナーが簡単に外れたりしませんか？	YES ☐	NO
7	フットサポートの確認 ・固定ボルトの緩みはありませんか？ ・フットサポートの折りたたみはスムーズにできますか？ ・フットサポートに破損や亀裂はありませんか？	YES ☐	NO
8	アームサポートの確認 ・アームサポートに破損・亀裂はありませんか？	YES ☐	NO
9	グリップの確認 ・グリップに破損や亀裂はありませんか？	YES ☐	NO
10	タイヤ空気圧の確認 ・650kPa(6.5kg/cm ²)ありますか？	YES ☐	NO

クルマイスの法定耐用年数は決まっていますが、障がい者給付制度の運用から6年程度とお考えください。

このようなときには

症 状	確 認	処 置
走行操作が重い	主輪・キャストに髪の毛・ビニールなどが巻きついていませんか？	巻きついた異物を取り除いてください。
	駐車ブレーキまたは立位駐車ブレーキをロックしていませんか？	駐車ブレーキまたは立位駐車ブレーキを解除してください。(P11参照)
	タイヤ(後輪)の空気圧が低くありませんか？	タイヤに空気を入れてください。
真っ直ぐ走らない	路面が傾斜していませんか？	傾斜している方向へ曲がります。
	キャスト(前輪)が片減りしていませんか？	キャストの交換をしてください。
	タイヤ(後輪)が片減りしていませんか？	タイヤ(後輪)の交換をしてください。
	タイヤ(後輪)の空気圧が低くありませんか？	タイヤ(後輪)に空気を入れてください。
	キャスト(前輪)の回転に左右差がありませんか？	キャストを固定するボルトをゆるめてください。
	キャスト(前輪)・タイヤ(後輪)の計4輪がきちんと接地していますか？	平らなところで確認してください。
	駐車ブレーキまたは立位駐車ブレーキを片側のみロックしていませんか？	駐車ブレーキまたは立位駐車ブレーキを解除してください。(P11参照)
ブレーキが効かない	駐車ブレーキまたは立位駐車ブレーキがタイヤに当たっていますか？	駐車ブレーキまたは立位駐車ブレーキの位置を調整してください。
	駐車ブレーキまたは立位駐車ブレーキがガタついていませんか？	駐車ブレーキまたは立位駐車ブレーキのボルトをしめてください。(P12参照)
	タイヤ(後輪)の空気圧が低くありませんか？	タイヤ(後輪)に空気を入れてください。
	タイヤは摩耗していませんか？	タイヤを交換してください。
異音がする	可動部分のサビ・汚れ・油切れなどによる摩擦音が出ていませんか？	可動部分に潤滑油やグリスを塗布してください。
	ボルト類のゆるみにより、クルマイスがガタついていませんか？	各ボルトをしめてください。
	フレームがゆがんでいませんか？	(株)モルテン健康用品事業本部 お客様窓口までご相談ください。
クルマイスがたためない	フットサポートの動きがかたい	フットサポートの可動部分に潤滑油を塗布してください。
ホイールが外れない	駐車ブレーキまたは立位駐車ブレーキが掛かっていませんか？	駐車ブレーキまたは立位駐車ブレーキを解除してください。(P11参照)
	ホイール中央のリリースピンボタンを押していますか？	リリースピンボタンを押しながらホイールを外してください。

上記の処置で直らなかった場合、またはその他の現象の場合は、
(株)モルテン 健康用品事業本部 お客様窓口までご相談ください。

株式会社 モルテン 健康用品事業本部 お客様窓口 TEL(082)578-9226

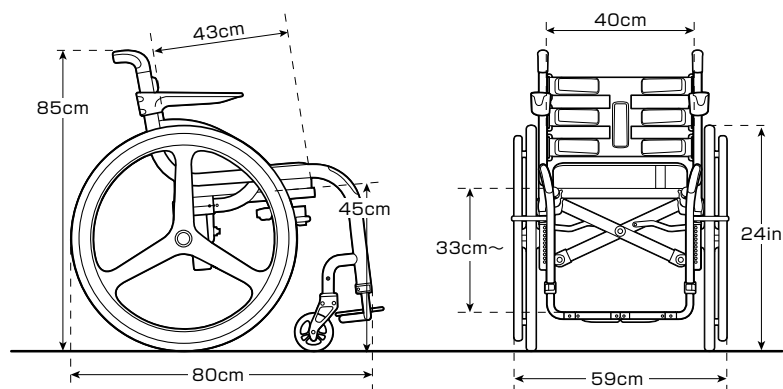
〈電話による受付時間〉月曜日～金曜日／9:00～17:00 ※祝祭日、年末年始、ゴールデンウィーク、夏季休業日など弊社休業日を除く

仕様

ウィーリイ(スタンダードモデル)

品番 MWHEPSGY22(ダークグレー)／MWHEPSWY22(ホワイト)

- 素材：フレーム＝アルミ
シート＝軟質樹脂(補強仕様)
バックサポート＝ポリエステル
ハンドリム＝アルミ
- サイズ：本体＝全長80×全高85×全幅59cm
前座高＝45cm
後座高＝40cm
シート幅＝40cm
シート奥行＝43cm
アームサポート高＝25cm
バックサポート高＝40cm
フット長＝33cm～
折りたたみ幅＝35cm
- 重量：14.0kg
- キャスト：5in、ノーパンクタイヤ
- タイヤ：24in、エア式タイヤ(米式)、
空気圧＝650kPa(6.5kg/cm²)
- 最大使用者体重：100kg



開発・製造・販売元

ISO9001 認証取得
ISO13485 認証取得
※床ずれ防止マットレス・体動センサの設計、
製造および付帯サービスにて取得
本製品の取扱説明書と使用方法動画は
下記QRコードからダウンロードいただけます。



取扱説明書



動画で見る製品情報

株式会社 **モルテン**

健康用品事業本部

www.molten.co.jp/health

東京 札幌 仙台 埼玉 名古屋 大阪 広島 福岡

製品他、各種お問い合わせは

〒733-0036 広島市西区観音新町四丁目10-97-21

TEL.082-578-9226

E-mail:health@molten.co.jp

〈電話による受付時間〉月曜日～金曜日/9:00～17:00
※祝祭日、年末年始、ゴールデンウィーク、夏季休業日など弊社休業日を除く

2024.01